

V32c 大学 VLBI 連携観測の現状について

藤沢健太 (山口大)、ほか大学 VLBI 連携観測グループ

2008 年度から大学 VLBI 連携観測事業に大阪府立大学、茨城大学がメンバーとして参加し、7 大学 (北大、筑波大、茨城大、岐阜大、大阪府立大、山口大、鹿児島大) と国立天文台の共同研究となっている。観測にはさらに 3 研究機関 (宇宙研、NICT、GSI) の協力を得ている。

2008 年度には、これまで行ってきた研究の結果の多くが論文として発表されるようになった。掲載された、あるいは掲載が決まっている論文の一部を紹介すると、次の通りである。(1) Cyg X-3 のフレアの観測 (坪井他) (2) メタノール・メーザのイメージングサーベイ、および励起機構の研究 (杉山他) (3) 星形成領域 IRAS 06061+2151 のガスの運動 (元木他) (4) 晩期型星 NML Cygni のアウトフロー (永山他)。特に、北海道大学・鹿児島大学・山口大学など大学の研究成果となっていること、また学生が主著者として論文発表をしていることが特筆できる。

研究を促進する活動として、グループ内でのプロポーザル募集、ワークショップの開催、ニュースレターの発行などを行っている。

講演では、観測網の整備状況と東アジア VLBI への展開の状況、また 1 年程度の短期的な研究プログラムについて紹介する予定である。